

家畜衛生だより 平成30年9月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

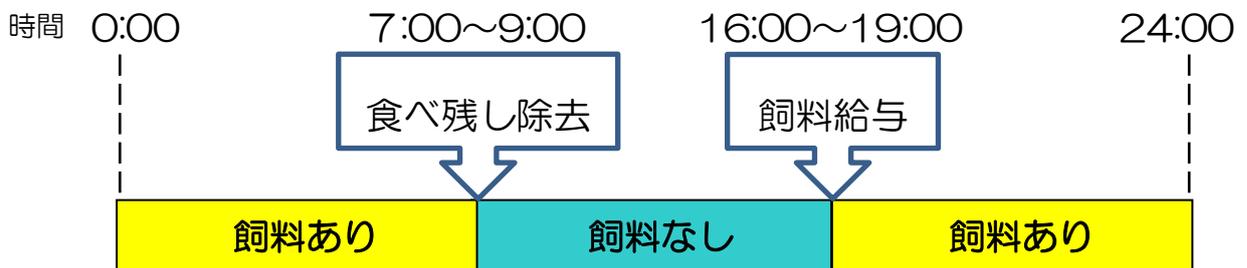
牛の分娩管理

最近、紀南管内では分娩時の事故が増加しています。

新生子牛(生後7日以内)の死亡事故の多くは生後24時間以内に起こっています。これらの事故の原因は無看護分娩による難産や虚弱子牛への対応の遅れです。事故防止のためにも、分娩時には必ず立ち会いましょう。

1. 昼間分娩の確率を上げるための方法

- 昼間に分娩させることで立ち会いやすくなり、分娩事故を防止
- 1日1回の夜間給餌
- 分娩予定2週間前からスタート
- 1日分の飼料給与量を16:00~19:00の間に全量給与し、翌朝7:00~9:00頃にすべて除去(配合、粗飼料の両方)
- 水は自由に飲めるようにして、鉢塩を必ず設置



2. 分娩房で産ませる

- 分娩房は母牛がゆったり休める広さ(3m×3mの9m²程度)で、生まれた子牛が柵に挟まれたり、外へ逃げ出したりしないように柵の間隔幅や最下部の柵と牛床の間隔に注意

- ・分娩房があると、分娩前後の増飼いや昼間分娩のための夜間給餌など、母牛の特別な管理が簡単
- ・分娩予定日の2週間前には分娩房の清掃・消毒を行い、母牛を入れて分娩を待ちましょう

3. 分娩の兆候

分娩予定日の2週間前から観察を強化

1) 分娩が近づく

- ・外陰部や乳房がはれてくる
- ・尾根部の周りがくぼむ

2) 分娩1~2日前

体温が0.5~1度低下

- ・外陰部からかたい粘液が認められ、その粘液が柔らかく変化
- ・分娩前日に著しく体温が低下

3) 分娩当日

- ・尾の付け根の周りが顕著にくぼむ
- ・尾を上げる動作が増える
- ・分娩房内をぐるぐる歩き回る

<正常な分娩の経過>

陣痛開始 → 第一破水 → 足胞みえる → 第二破水 → 分娩 → 後産排出
(胎胞破れる) (足胞破れる)

4. 難産

初産や過肥の牛に多い

1) 難産を判断するポイント

- ・陣痛開始から5時間以上経っても陣痛が強くない
- ・陣痛が強くなってから2時間以上経過しても胎胞が見えない
- ・第一破水から2時間経過しても足胞が現れない
- ・前あしが見えるのに鼻先が触れない
- ・あしが1本しか触れない
- ・前あしが見えないのに鼻先や頭部が先に出てきた
- ・さか子

このような場合は、至急、獣医師へ相談してください。助産が必要な場合があります。

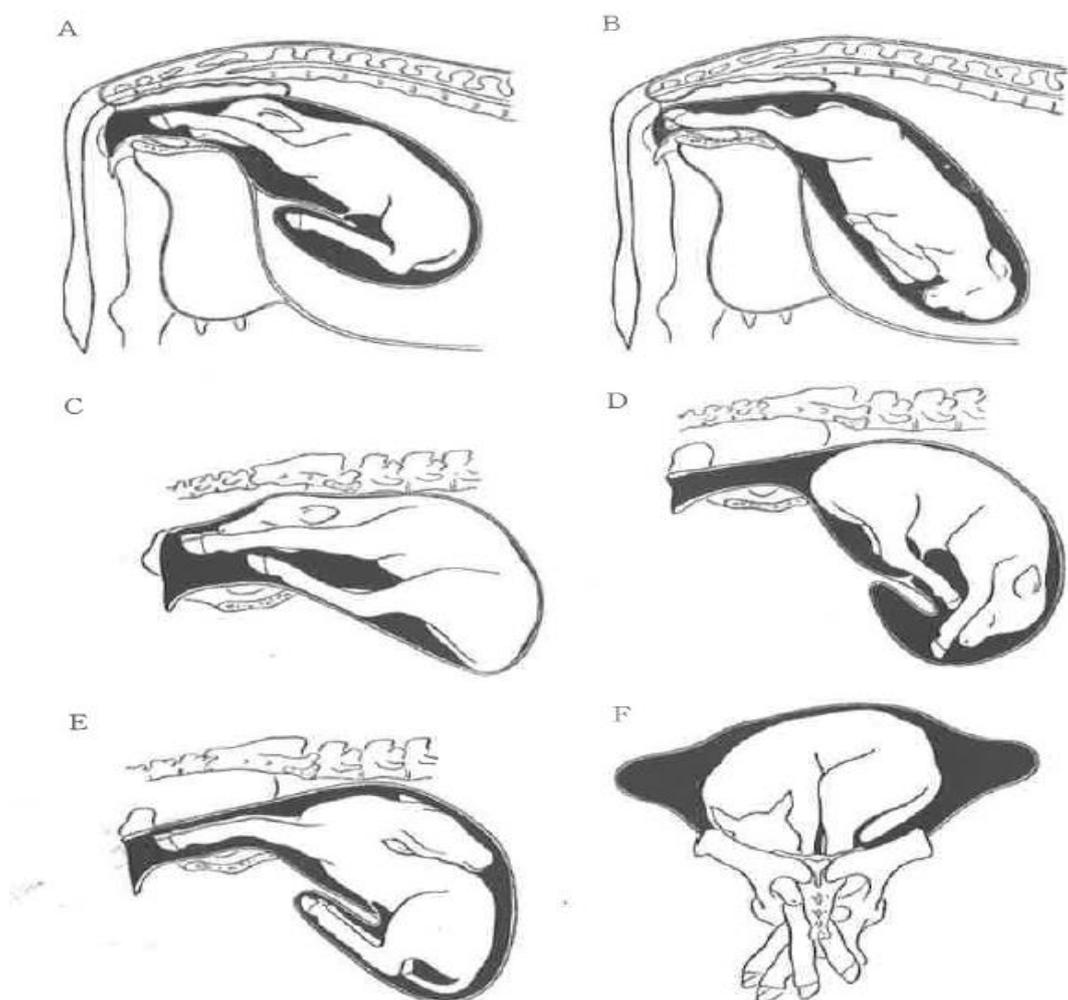
助産する場合は、必ず子牛の頭部を確保しながら行ってください。

2) 注意

正常に分娩しているにもかかわらず、母牛が苦しそうにしているからといって、子牛を引っ張り出すことはよくありません。

不要な助産をすると、産道で出血したり子宮の回復が遅れるだけでなく、子牛の活力が低くなりその後の発育に悪影響を与えることにもなります。

あわてずに母牛を信用して、分娩の邪魔にならないように見守り、待つことも重要です。



A. 正常頭位, B. 正常尾位, C. 縦腹位 (犬座肢勢), D. 尾位で両後肢の髌臼関節屈折, E. 子頭側転, F. 横腹位
失位一覽 (Roberts 原図, 1971)

気になることや不明な点がありましたら、
所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。